

わたしの若浜小学校

平成六年 五年 女児

「みなさん、今日は何の日か、わかりますか。」校長先生は、ゆっくりとおっしゃいました。

私は、ステージの上の校長先生を見つめながら、「何だろ。校長先生、早く教えてくんねがな。」と、じれったく思いました。そして、校長先生は、少し間をおいて

「今日は、若浜小学校のたん生日です。」と、はっきりとおっしゃいました。私は、「ああ、そうだったのかあ。わすれでたけえー。」とくやしくなりました。なぜかというと一年前の今日、「若浜小学校のたん生日を来年は絶対覚えでやるぞ。」と心に決めていたからです。覚えているどころか、すっかりわすれてしまいました。

若浜小学校は、今年で二十三歳になりました。私は、それを聞いて、とてもうれしく思いました。校長先生の顔もとてもうれしそうです。

それから校長先生は、若浜小学校に初めて入った子ども

ものの作文を紹介してくださいました。内容は、よく覚えていませんが、新しい、ピカピカの校しやにとっても感激している様子が心に残りました。

その作文を聞いているうちにとってもうらやましくなってきました。私は心の中で「そのころの若浜小学校は、どれくらいピカピカだったんがなあ。」と思いました。今の学校からは、まったく想像できません。でも、よく考えてみると、若浜小学校をよごしているのは自分たちなのです。これからはもっと若浜小学校を大事にしていきたいなあと思いました。